

きずな

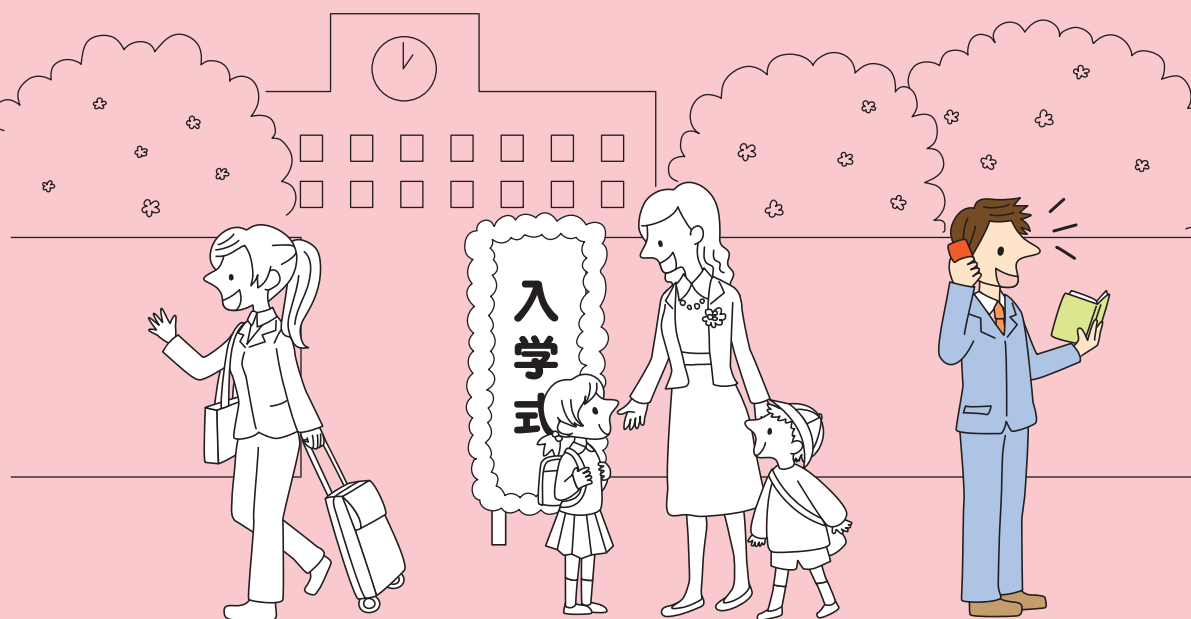
2013年
(平成25年)

4

特集テーマ

人権

共生社会の実現をめざして



4月10日 法テラスの日

日本司法支援センター(法テラス)が、どこでも法的なトラブルの解決に必要な情報やサービスの提供を受けられるよう、法人設立日である4月10日に設定。全国各地で無料法律相談会や業務時間を延長しての情報提供、街頭啓発活動などさまざまな事業を実施します。

2 巻頭言

「つながり」が実感できる
兵庫をめざして

金澤和夫((公財)兵庫県人権啓発協会理事長)

3 電車の中で

坂本ユミ子(神戸市東灘区)

4 私のものであるとともに、
あなたのものである人権
—きずなを結ぶ—

坂元茂樹さん(神戸大学大学院法学研究科教授)

5 地域のお年寄りと

乳幼児、保護者が交流を深める「家」
社会福祉法人みかり会 幼老複合型「ういず」
(南あわじ市)

6 「きずな」編集室だより

7 ふれあいサロン

8 情報ぷらざ



「つながり」が実感できる兵庫をめざして

公益財団法人兵庫県人権啓発協会理事長
兵庫県副知事

金澤 かなざわ
和夫 かずお



すべてが始まる季節の訪れを感じながら、心新たに新年度を迎えました。

昨年度は、ロンドンオリンピック及びこれに引き続くロンドンパラリンピックで多くの兵庫ゆかりの選手が活躍し、私たちに夢と元気を与えてくれました。

その一方で、いじめや児童虐待、体罰などによる痛ましい事件が相次いで報道され、「いのち」の尊さを実感させられる1年でもありました。また、インターネットの匿名性を利用したいじめや差別的な発言もますます増えてきており、私たちの生活を充実させるための新しい手段

が、違った形での人権課題を生んでしまっています。

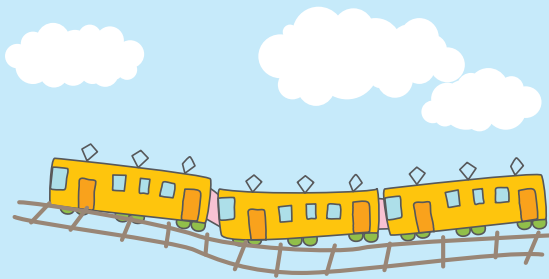
虐待や体罰は、体に暴行を加えるから悪いのではありません。また、いじめや差別は、受けた人が苦痛に感じるから悪いのではありません。たとえ言葉だけであっても、仮に相手が深く傷つくことがなくても、一人ひとりを大切な存在として尊重する感覚（人権感覚）の欠如こそが、問題にされるべきなのではないかと思えます。

今、兵庫も人口減少県となり、少子高齢化が進んでいます。地域力の低下などが懸念される中、人口が減っても活力を失わず、子どもたちが夢

を持ち続けることができる社会をつくっていくためには、女性や高齢者、障害のある人達なども含め、すべての人が大切に尊重され、いきいきと活躍できる環境を整えなければなりません。今こそ、あらためて人権文化を定着させるとともに、失われつつあると言われるきずなをとり戻し、人と人のつながりづくりや支えあいを進めることが大切なのではないでしょうか。

人権の大切さ、一人ひとりが生きているということの意味・大切さに気づくとともに、「つながり」が実感できる、人権文化に満ちた兵庫をもにめざしていきましょ。

すべての人が個性を尊重し、互いの違いを認め合い、共に支え合う「共生社会」を実現するためには、一人ひとりの人権の尊重が、日常生活の中に自然に態度や行動に表れるようになることが大切です。自分だけでなく、周りの人たちの人権も大切にするために、県民一人ひとりが「人権」について何をすべきかを考えます。



電車の中で

坂本ユミ子
(神戸市東灘区)

ある日

電車の中で

優先座席が無くなった

ポスターが貼ってあった

「全ての座席が優先座席です」

なるほど、なっとく

先日

電車の中で

座って本を読んでいると、声がした

「お詰め合わせ願えませんか？」

目の前に年配の女性が立っていた

席を詰めると、女性は座る前に

「申しわけございません」

丁寧に頭を下げた

久しぶりに美しい日本語を聞いた

仕事の帰り

電車の中で

隣に座っていた男性が突然、怒鳴った

「やめろーこの車両は携帯禁止やー」

男性の隣で若い女性がメールをしていた

車内に緊張が走った

大変な所に座ってしまった！

女性はすぐに携帯をバッグにしまい

「すみません。知らなかったので」

頭を下げた

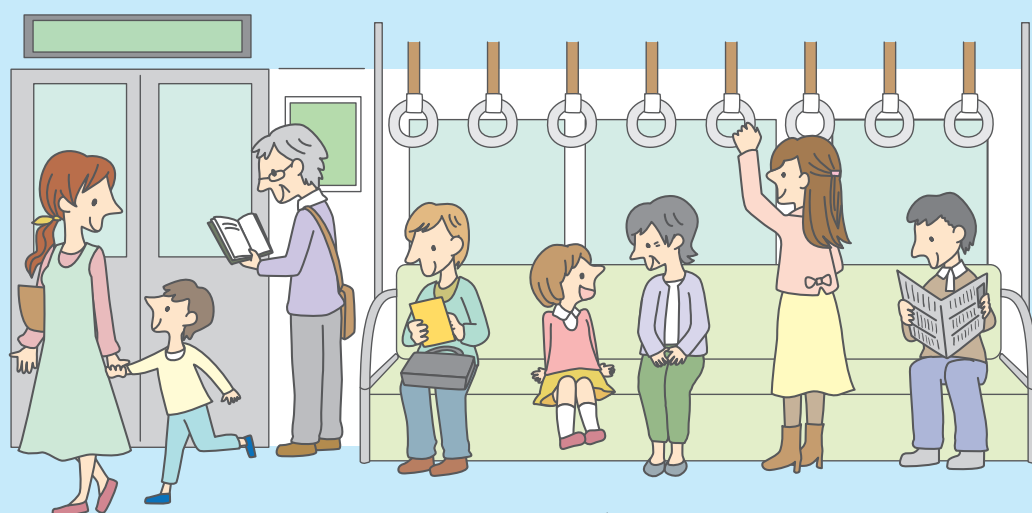
男性の態度が一変した

「大きい声出してすまんかった

ペースメーカーつけてるから」

車内はなごやかな空気に包まれた

ここにいて良かった：





メッセージ

私のものであるとともに、
あなたのものである人権—きずなを結ぶ

坂元 さかもと 茂樹 しげき さん（神戸大学大学院法学研究科教授）

人権とはなにか

1948（昭和23）年に国連総会で採択された世界人権宣言第一条は、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳及び権利において平等である」と規定しています。

人は生まれながらにして自由であつても、平等ではありません。裕福な家に生まれる子もいれば、貧しい家に生まれる子もいます。しかし、そのように異なる環境に生まれた子であっても、一人ひとりかけがえのない存在です。人権とは、私たち一人ひとりが人間らしく生きることを保障するものといえます。

また、人権とは、人間の尊厳に基づいて各人が持っている固有の権利です。わかりづらい表現ですが、人権はおかしがたく譲

り渡すことのできない権利だという意味です。民主主義社会は多数決原理を採用しますが、多数決でも奪いえないのが人権です。人権とは、私のものであるとともに、あなたのものでもあります。一人ひとりが人権を守る意識をもつことによって、自分の人権のみでなく、他の人の人権も守ってゆくことができます。お互いが相手の個性や特徴を認め合い尊重し、ともに生きる「共生の文化」を築き上げるためには、人権の尊重が必要です。

人権が尊重される社会をめざして

人権が尊重される社会とは、国籍、年齢、性別、障がいの有無などに関わらず、すべての人の尊厳が守られ、可能性が発揮できる社会です。残念ながら現実には自分には人権が十分に保障されていないとか、差別や虐待の問題、また、社会参加の阻害など

の問題を抱えている人々がいます。これらの問題を解決するためには、「すべての人の人権を尊重する」という視点に立ち、それらの人々の置かれている状況の改善を図る取り組みが必要です。

2011（平成23）年の東日本大震災により、被災者は多くの困難に直面しています。この震災により、日本国民は命とくすの大切さに気づかされました。震災後に多くの日本国民が示した援助の申し出やボランティア活動は、日本が決して「無縁社会」ではなく、連帯の心が残っている健全な社会であることを証明しました。まだ生活再建ができない東北の被災者に何ができるのか、われわれ一人ひとりが被災者の置かれた厳しい状況に寄り添う心を持ち、みずからができる支援を実践することにより、きずなを結ぶことができます。人権が尊重される社会とは、そのような社会だと考えます。



プロフィール 1950（昭和25）年生まれ。法学博士（神戸大学）。国連国際法委員会日本政府オブザーバー、みなみまぐろ事件（豪州・ニュージーランド対日本）日本政府代表団顧問、国際人権法学会理事長などを歴任。現在、国連人権理事会諮問委員会委員、（公財）世界人権問題研究センター第1部（国際人権法）部長を務める。



木の温もりが漂う
モダンな建物

社会福祉法人みかり会 幼老複合型「ういず」

南あわじ市松帆高屋乙 158-1

TEL 0799 (53) 5560

FAX 0799 (53) 5561

地域のお年寄りと 乳幼児、保護者が交流を深める「家」 社会福祉法人みかり会 幼老複合型「ういず」（南あわじ市）



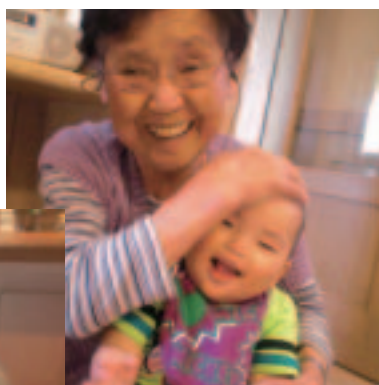
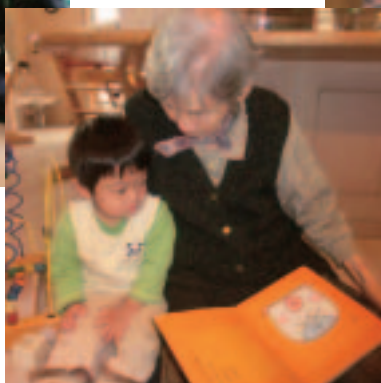
南あわじ市の社会福祉法人みかり会が2008（平成20）年から運営している「ういず」は、介護施設と認可保育所を併設した島内初の幼老複合型の福祉施設。平日の昼間、お年寄りと0～1歳の園児と一緒に過ごしています。核家族化が進む現在、世代を超えた交流は双方にどのような効果を与えているのでしょうか。

「園児たちは地域の人に見守られながら成長し、利用者は園児たちの姿に安らぎを感じ、触れ合うことが生きがいづくりにもつながっています」と管理者の山本ひとみさんは話します。

お年寄りたちは、保護者に育児についてアドバイスしたり、園児の体調の変化にいち早く気付いて知らせてあげたりと、「子育ての先輩」として頼りになる一面をのぞかせることも。「最近、〇〇ちゃんを見ないけど、元気にしてるの?」と、子どもの様子を気に掛け、触れ合いのひとときを楽しみにしています。また、進級後も「ういず」に遊びに来る親子は多く、交流は長く続いています。

「淡路島でも核家族が増えたこともあり、家の中で互いを思いやる、頼りにし合うといった関係が薄れてきた感じはあります。利用者の尊厳を大切にしつつ、親や園児たちに安心できる場を提供していきたいです」と山本さん。

「ういず」では、地域の人たちにも気軽に利用してもらおうと週1回、カフェを開いています。最近は地域の老人クラブが活動場所として使ったり、介護保険制度や各種サービスの相談説明会の会場になることもあります。地域に根差した幼老複合型施設は全国でもまだ珍しく、他県の自治体などの視察も増えています。



本を読み聞かせたり、積み木で遊んだり。あちらこちらからお年寄りとお年寄りの楽しそうな声が聞こえてきます



2013(平成25)年度の特集内容のお知らせ

私たちの身の回りにはさまざまな人権課題があります。(公財)兵庫県人権啓発協会では、人権文化あふれる社会の実現に向けて、法務省人権擁護局の啓発活動年間強調事項や国の「人権教育・啓発に関する基本計画」、兵庫県の「人権教育及び啓発に関する総合推進指針」、県と当協会が実施した「人権に関する県民意識調査」の結果などに基づき、「ひょうご人権ジャーナルきずな」を企画・編集します。



〈2013(平成25)年度の掲載内容(予定)〉

児童虐待、いじめや体罰、地域の子育て支援など子どもを取り巻く課題について取り上げます。	インターネットの匿名性、情報発信の容易さを悪用したネット社会にひそむ人権侵害について考えます。
セクシュアル・ハラスメントや男女差別、DVの防止など男女共同参画社会の推進に向けて考えます。	北朝鮮による拉致問題について、関心と認識を深めるための啓発を行います。
外国人の人権が尊重される多文化共生のまちづくりのために何が必要か考えます。	ユニバーサル社会づくりに向けて、障害のある人の課題について考えます。
同和問題に関する偏見や差別意識をなくすため、課題の解決に向けて啓発を行います。	ハンセン病やHIVなどの感染症に関する正しい知識と理解を深め偏見をなくす啓発を行います。
先住民族であるアイヌの人々の歴史、文化、伝統および現状に関する理解に向けて啓発を行います。	性的マイノリティの人が抱える問題について、その関心と理解を深めていくための啓発を行います。
虐待や孤立の問題、認知症、介護など高齢者が抱える課題と支援のあり方について取り上げます。	自殺防止や震災に関係する人権問題など、「いのち」の尊厳に関わるさまざまな課題を取り上げます。
ハラスメントやワーク・ライフ・バランスの問題など誰もが働きやすい職場づくりについて考えます。	刑を終えて出所した人に対する偏見やホームレスに対する偏見について取り上げます。
犯罪被害者とその家族の人権に配慮するための支援について考えます。	人身取引の問題について、関心と理解を深めていくための啓発を行います。

〈法務省人権擁護局の2013(平成25)年度啓発活動年間強調事項〉

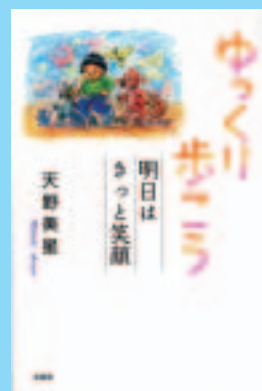
- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●女性の人権を守ろう ●子どもの人権を守ろう ●高齢者を大切に育てよう ●障害のある人の自立と社会参加を進めよう ●同和問題に関する偏見や差別をなくそう ●アイヌの人々に対する理解を深めよう ●外国人の人権を尊重しよう ●HIV感染者やハンセン病患者等に対する偏見をなくそう ●刑を終えて出所した人に対する偏見をなくそう | <ul style="list-style-type: none"> ●犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう ●インターネットを悪用した人権侵害をなくそう ●北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう ●ホームレスに対する偏見をなくそう ●性的指向を理由とする差別をなくそう ●性同一性障害を理由とする差別をなくそう ●人身取引をなくそう ●東日本大震災に起因する人権問題に取り組もう |
|--|---|

きずな編集室では読者の声を生かした誌面づくりをめざしています。皆さんからのご意見・ご希望をお待ちしています。

母親の「信子」が、わが子「航ちゃん」の誕生から今日に至るまでの成長の過程を見つめながら、その時々々に人々との触れ合いや家族の意味、地域や学校などの社会との関わりについて温かい視線で描いています。

話題の中心にいる航ちゃんは、幼い頃から興味を持ったものに固執するところがあります。性格は何事にもマイペース。ある日、医師から高機能自閉症と診断されましたが、両親は彼のすべてを受け入れ、自転車で一人旅や海外留学など、さまざまな体験をさせます。航ちゃんの間はハラハラドキドキの連続。時に周囲から心ない対応をされることもあり、心優しい人たちに見守られながら困難を乗り越え、前向きに歩んでいく姿には感銘を受けます。

ゆっくり歩こう
明日はきっと笑顔
天野美星著(文芸社)



きずな・ふりふり
おすすめの一冊



読者からのお便り

●2月号の「人権かるたで子どもの生きる力を育む」を読み、心の教育は「ハチドリのひとつく」のように一人ひとりの行動が大切だと思いました。しっかりと身の回りを見直し、自分のできる人権教育を実践していきたいです。

(姫路市・山本繁信さん)

●「きずな」を読むと、日常ではあまり触れる機会のないテーマについて考えることができます。

(神戸市・安藤真貴さん)

●毎月、「きずなライブラリー」を楽しみにしています。読んでみたくなる本ばかりですね。

(たつの市・堀井和美さん)

「きずな」のバックナンバーは、当協会または各市町の人権啓発担当部署にお尋ねください。



クロスワードを解いて、A～Iの文字を順番に並べると、
何という言葉になるでしょう？



カ
タ
テ
の
カ
ギ

- 1 自分の心のままに行動できる状態。「〇〇〇自在」
- 2 「拝啓」で始まる手紙の最後に添える言葉
- 3 勝利を表す〇〇サイン
- 4 心に深く感じることでできる豊かな〇〇〇〇を育てたい
- 6 県内には谷崎潤一郎、手塚治虫、孫文などの館があります
- 7 電話などで相手に声を掛ける時に用いる言葉
- 8 生活すること。日々の〇〇〇を大切にしたい
- 11 決して〇にしていけない言葉
- 13 花卉が何枚も重なっている〇〇の桜
- 14 うららかな〇〇の一日を楽しみたい

ヨ
コ
の
カ
ギ

- 1 日常生活の中で互いを大切にすることが自然に根付いている社会のありよう
- 5 空に浮いて漂う雲。
不安定でどうなるか分からないことのたとえ
- 8 人は誰でも少なくとも7つぐらいい持っているそうです
- 9 頼りにしてすべて任せられるという気持ちを抱くこと
- 10 美味として人気のアンコウの肝臓
- 12 ありがたいと思うこと
- 15 つらく苦しいこと。「^{かんなん}艱難〇〇〇を共にする」
- 16 好敵手と試合前に交換します

〈2月号の答え〉ココロノキョウイク

お便り掲載者

クロスワード正解者 (抽選)

オリジナル印章ケースをプレゼント!

「読者からのお便り」の投稿掲載者(6月号に掲載)とクロスワードの正解者(抽選で20人)にオリジナル印章ケースをプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人々との触れ合いを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。※投稿はペンネームの使用も可能です ※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます



■応募方法・締め切り

はがきかファクス、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用する場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を書いてください。5月15日(水)締め切り(必着)

■応募先

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内

(公財)兵庫県人権啓発協会「きずな編集室」

TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 ✉info@hyogo-jinken.or.jp

「拉致問題を考える国民大集会in 兵庫・神戸」が開催されました

2月20日、兵庫県公館で「拉致問題を考える国民大集会 in 兵庫・神戸」が開催され、約460人が参加。同集会は地方での拉致問題啓発への取り組みを促進することを目的に、政府拉致問題対策本部と兵庫県、神戸市が共催しました。

西村康稔内閣府副大臣（拉致問題担当）、井戸敏三知事、矢田立郎市長、県・市議会の議長のあいさつに続き、拉致被害者家族連絡会の飯塚繁雄さん、神戸出身の拉致被害者、有本恵子さんの父明弘さんと母嘉代子さんが講演。映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」の上映もされました。

飯塚さんは拉致された田口八重子さんの写真を手に、「もし自分の家族が被害者ならばと考え、この問題を風化させないでほしい」と訴えました。有本さん夫妻は「高齢で体が弱る中、何とか生きている間に恵子の顔が見たい。皆さんの力をお貸しください」と呼び掛けました。

北朝鮮による拉致問題は、自国民保護という国家の根幹に関わるものであり、国民全員が自分自身の問題として捉え、一丸となって取り組むべき重要な課題です。



集会への思いを述べる井戸知事



拉致問題の解決に向けて協力を呼び掛ける飯塚さん(上)、有本さん夫妻(右)



イベントガイド

ハートフル・シネマサロン

- 日時／5月8日(水)13:30～(開場13:00)、18:30～(開場18:00) ※無料、要申し込み(4月8日から先着順)
- 場所／神戸文化ホール中ホール ※神戸市営地下鉄「太倉山」駅から徒歩約1分
- 内容／「最強のふたり」(113分)、人権啓発映画「ほんとの空」(36分)(共に字幕、副音声付き)
- 申し込み、問い合わせ／神戸市人権推進課 TEL 078(322)5234

(公財)兵庫県人権啓発協会では賛助会員を募集しています

- 入会特典**
- ①「ひょうご人権ジャーナルきずな」(月刊)をお送りします
 - ②人権講演会等の開催についてご案内します
 - ③法人・団体会員には要請に応じ、研修会や講演会等に講師を派遣します(1口につき研修料から1万円を免除)
- 年会費**
- 個人会員……………1口1,000円
 - 法人・団体会員 ……1口1万円
- ※複数口加入できます

ハーフタイム

2月号のクロスワードの解答は「心の教育」でした。読者の皆さんから頂いたお便りの中に、「心の教育は、教科のテストとは異なり、結果が見えないもの。見えないからこそ、ちょっとずつ着実に積み重ねていきたい」という内容のものが多々あります。私たちの回りには結果が見えづらいものが多いからこそ、「着実な積み重ね」の大切さを日々実感できる、そんな時間を過ごしたいものです。(田中)